

スーパー耐久シリーズ 2017 第 2 戦
SUGO スーパー耐久 3 時間レース
RACE REPORT

スーパー耐久シリーズの第 2 戦が、4 月 29 日(土)、30 日(日) スポーツランド菅生で開催された。

本戦のドライバーラインナップも開幕戦と同じ、本山哲を A ドライバーに、B ドライバーに松原怜史、そして安田裕信を C ドライバーに迎えた。

34 SKT Team motoyama Z34

ドライバー：A/本山哲、B/松原怜史、C/安田裕信

予選 ■ 4 月 29 日(土) 本山/松原 クラス 7 位：3'04.390

決勝 ■ 4 月 30 日(日) 松原(34)→安田(34)→本山(44) 112 周 クラス 3 位

予選日は朝から快晴のレース日和となった。A ドライバー予選が始まる時刻は 11 時 10 分。

A ドライバーの本山は、予選のセットに少してこずりベストタイムは 1'32.132、一方、松原も 1'32.258 で 7 番手のタイム。結果、合計予選タイムは 3'04.390 となり 7 位で公式予選を終えた。

明けて翌日の決勝レースは、朝から好天に恵まれ開幕戦に続き最高のコンディションの中、レースは 13 時 57 分にスタートを迎えた。



スタートドライバーの松原はオープニングラップから積極的にレースを進める、1st ステントを予定通り 34 周走り切りポジションを 2 つ上げて安田へとドライバーチェンジ。

給油とフロントタイヤのみの交換を済ませ 5 位でコースへと復帰した安田は、34 号車のベストラップを更新しながらさらにポジションアップを目指して激しくプッシュを開始。

ところが 60 周をこえてセーフティーカーが導入されたことによってレースが大きく動く事になった。

ロングステントを予定していた安田であったが、SC の導入により急遽作戦を変更して 68 周に本山へドライバーチェンジして表彰台を目指す作戦にでた。

ピットもドライバーも完全に準備が整わない中、緊急のピット作業が行われた。クールスーツを着る間もなくマシンへと乗り込んだ本山は、給油を済ませるとタイヤ交換なしで 5 位でコースに戻ることに。そこから本山のレースが始まる。

68 周を走ったタイヤとは思えない走りですらにベストラップを更新しながら猛プッシュ。気が付くとポジションは 3 位に、更に 2 位までポジションを上げ表彰台をほぼ手中に収める。

しかし猛追もここまで、リヤタイヤは限界を超え、激しいドライビングにブレーキも悲鳴を上げていた。レース終盤、裏ストレートエンドではさすがに後続を抑えきれずポジションを 1 つ落とすがそのままチェッカーまで走り切り 112 週のレースを 3 位でフィニッシュ。チームにとっては参戦 2 戦目で嬉しい表彰台を獲得した。

■ 本山哲のコメント

「今回のレースでは予選のセットアップがうまくいかず、松原も頑張ってくれましたが残念ながら7位に。

このポジションから表彰台を狙うのは正直かなり厳しいと思っていましたが、34号車にとっては良いタイミングにSCが入り、このチャンスを上手くものにする事が出来ました。

チームの頑張りと展開に恵まれたこともあって、RD2で表彰台に上がったのは思ったより早く上がったし、何と云ってもご支援いただいている皆さんに良い報告が出来る事を嬉しく思います。

次の鈴鹿もZに合っているコースだと思うので、次戦も表彰台を目指します。

引き続き応援をよろしくお願いいたします。」

motoyama.net

■ レースの公式結果はこちらよりご覧ください。→ http://supertaiky.com/race_result/

■ 次戦は、6/9-10に鈴鹿サーキット(三重県)にて開催されます。



2017 SPECIAL THANKS TO

asset

SKT

Team motoyama

TECHNO FIRST

CS CRAFT Sports

LOGI

* 本件お問い合わせはエムズクラブまで、info@motoyama.net

EMZ CLUB

HIROTEX Racing

25th Anniversary
Super Taiky
Japan Super Taiky